

業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合

2017. 6. 8

No.558

29年夏季手当 会社の考え

会社：「昨年度の実績並み（1.5 ヶ月）」

組合：到底納得できない。再考を強く求める。

本部は、6月8日午後、ボーナス交渉「会社の考え」を行いました。以下、報告します。

会社： まず、収入動向について。5月の速報値について。コンテナ・対計画：99.8%、△1200万円。車扱・対計画：105.2%、4400万円。計・対計画：100.4%、3200万円となっており、4月、5月、連続して計画をクリアしている。

6月昨日までの速報値は、コンテナ・対計画100.9%、1800万円。車扱・対計画105.2%、1000万円。計・対計画101.3%、2800万円となっている。引き続き、自動車部品・農産青果物・積み合わせ貨物等が好調であり、年度累計では現時点、対計画、約2億上回っている。

これまでの交渉を踏まえ、社内議論の中で、昨年度の鉄道事業黒字に対し、社員に感謝しなければならないことや、今年度は、動力費や線路使用料の負担増が見込まれる等の話が出ていた。

業績の反映は期末手当と会社が回答し、これまで指摘をされてきたが、経費については、事業計画にのり、慎重に判断しなければならない。また、経営自立に向け、鉄道事業黒字化を継続していかなければならないと考えている。

平成29年度の事業計画、中期経営計画で掲げる目標の達成に向け、努力していくが、昨年度以上のコスト増が見込まれている。厳しい環境下ではあるが、引き続き収入確保に努めていきたい。

以上を考慮し、現時点における会社の考えは「昨年度の実績並み」である。

組合：昨年度の実績並みと言われたが、1.5ヶ月という判断でよいか。

会社：よい。

組合：収入について、今年度に入ってから、対計画2億ほど儲かっていると話された。28年度の事業計画では経常利益88億を出し、鉄道事業におかれても、5億の黒字を出した。この数字を前にして、「昨年度並み」という会社の考えに理解が出来ない。業績の反映は期末手当で、と会社は言っている。到底納得できない。

会社：29年度事業計画の中身で、期末手当については、昨年の実績（夏1.5・冬1.5）を積んである。現在、計画通りに進んでおり、期末手当においても、特別積むという考えが、現段階ではない。

組合：事業計画で努力目標20億削減があるが、まだ具体的な中身は決まっていないのか。

会社：まだ決まっていない。期末手当仮置き数値（1.5）からの削減は考えていない。

組合： 私達は他労組とは異なり、年間 4,5 ヶ月以上を要求している。もしこのまま、夏 1,5 ヶ月という回答になった場合、冬 3,0 ヶ月以上を約束できるのか、という形になるが、これまでの期末手当をみれば、3,0 ヶ月以上という数字は現実味に乏しい。0,1 ヶ月の原資はいくつになるか。

会社： 約 2 億である。

組合： 例えば、1,5 ヶ月から、0,5 ヶ月アップし、2,0 ヶ月の場合、会社の捻出は約 10 億である。これまでの社員の貢献度を考えれば、決して高い数字でないと考える。今年、約 200 人を採用した。初めてもらうボーナスであり、期待も大きい。「JR 貨物のボーナスはこんなに低額なのか」と意気消沈すれば、将来に渡り、会社全体が沈んでいく。また、近年では、若い労働者確保が難しいとされている。先を見越し、労働条件を上げ、優秀な人材確保に努める企業も出始めている。JR 貨物も将来に渡り、優秀な人材確保は必須であり、労働条件改善は早期にやらなければならない。本日、会社の考えを聞いたが、到底納得できる中身でなく、強く再考を求める。

会社： 貴労組からの主張を経営陣に伝え、社内議論を深めていきたい。

以上